

江別第一中学校 学校だより

純誠



教育目標

- ・自ら進んで学び未来を創造する生徒
- ・豊かな心を持ち互いに協力して生活をもつ生徒
- ・強い意志と体力を持ち、進んで努力する生徒

令和2年 7月31日号 第7号

好きの力

江別市立江別第一中学校
校長 新田 元 紀

◎ 藤井聡太棋聖

史上最年少の将棋のタイトルホルダー、藤井棋聖。将棋界には、誰が言ったか「兄達は頭が悪かったので東大にいった。私は頭が良かったので将棋指しになった」という名言（迷言）が残っています。そんな世界で『天才』と呼ばれる18歳です。昨年に行われたイベントの中で、こんな質問があったそうです。

「将棋の神様をお願いするなら、何？」

一緒にいた女流初段は「すべての対局に勝てますようにとお願いします」と答えました。極めて普通で可愛い答えだと思います。

続いて藤井棋聖が答えました。

「せっかく神様がいるのなら、1局、お手合わせ願いたい。」

しびれます。普通は「神様と対戦したい」なんて思わないですよ。凡人の私などは「神様」と「かみさん」には、頭を垂れ、手を合わせてお願いするだけです。

藤井棋聖の答えから「将棋が好きで好きでたまらない」という気持ちが伝わってきます。

もちろん努力はしているでしょう。私たちには想像できないほどの努力だと思います。でも彼は、その努力を苦しいだとか、辛いなどと感じていないような気がします。

きっと好きなことをトコトンまで追求できる人が『天才』なのでしょうね。

◎ 「好きの力」

卒業式の式辞でも紹介させていただきましたが、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者、水木しげるさ

んは、こう言っています。

「熱中する能力、いわば好きの力ほど、生きていく上で大事なものは少ないような気がする。」

水木さんは絵を描くのが大好きでしたから好きを極めて漫画家になりました。藤井棋聖も好きなことを職業にしています。

ただ、「好き」を職業にできる人は、そう多くないような気がします。そして、「好き」を職業にするのが、幸なのか不幸なのかわかりません。

でも、水木さんが言うように、生きていく上で「好きの力」は絶対に必要でしょう。「好き」は生活に潤いを与えてくれます。小中高と学校生活を送り、いろいろな勉強をしているのは、「好き」を見つけるためなのかもしれません。

◎ 好きになる努力

藤井棋聖も水木さんも『天才』ですから、すぐに「好き」を見つけたような気がしますが、私たちは「好きになる努力」も必要なのではないかと思っています。

「国語が苦手」「英語が嫌い」「数学なんて見たくもない」…自分で勝手に決めつけてはいないだろうか。好きになる努力をしたらどうか。

人間関係などにも通じる気がします。

◎ 短い夏

明日から8月。今年は、割りと過ごしやすい夏になっています。

夏休みまではあと1週間。この時期に授業をやっていること自体が例年とは違う夏ですが、海水浴場が開かれなかったり、花火大会がなくなったりと夏の風景も様変わりです。

とはいえ、北海道の短い夏です。何か「好きなことを楽しみたいですね。」

マスク着用が日常化した夏でもあります。熱中症などにかからぬよう、ご自愛を。